

暗唱のすすめ 百人一首編⑩

四十六 由良の^{ゆら}とを^{わた} 渡る舟人^{ふなびと} かちを絶え^じ
ゆくへも知らぬ^エ 恋の道かな^{こい みち}

曾禰好忠
そねのよしただ

四十七 八重葎^{やえむぐら} しげれる宿の^{やど} きびしきに
人こそ見えね^{ひと} 秋は来にけり^{あき き}

恵慶法師
えぎようほうし

四十八 風をいたみ^{かぜ} 岩うつ波の^{いわ なみ} おのれのみ
くだけて物を^{もの} 思ふころかな^{おもウ}

源重之
みなもとのしげゆき

四十九 みかきもり^{えじ} 衛士のたく火の^ひ 夜は燃え^{よる も}
昼は消えつつ^{ひる き} 物をこそ思へ^{もの おもエ}

大中臣能宣
おおなかとみのよしのぶ

五十 君がため^{きみ} 惜しからざりし^お 命さへ^{いのち エ}
長くもがなど^{なが} 思ひけるかな^{おもイ}

藤原義孝
ふじわらのよしたか